



サンダース・マツト

所属：言語教育センター
教科：英語準中級・英語中級

3 Tips:

1. 「なぜ」の重要性
2. クラスの「マップ」を作る
3. 学生のフィードバックに忠実に

Q. 現在、英語のクラスを二つ（準中級、中級）担当していらっしゃいますが、どちらの授業のどの内容に、より力を入れていますか？

A. すべての英語クラスの準備に同じように時間がかかりますが、現実的には学生のレベルによって変わります。準中級のクラスを準備するときは、学生にとって理解しやすくかつ手ごたえのある授業をつくるようにしていますが、中級の授業をつくるときは手応えの方をより重視して作成しています。

私が最も注力していることは学生の能力に対応する学習計画を立てることです。言語クラスは、なにか一つの能力ではなく、読解、筆記、語彙、文法、会話、リスニングなどすべての要素を含めることに注意が必要です。言語教授は、授業内容の面で準備することがたくさんありますが、学生が確実にこれこれの授業をつくるのがカギとなります。

Q. 学生の学習の質向上のためにど

のようなことをされてますか？

A. 教育の質の観点からは、学生が「マップ」を持つことが大切です。この「マップ」は過去、現在、未来におけるクラスの位置（現在学生たちがどこにいるか、どこを目指すか）などを示す役割を担っています。マップでは、学生が授業で学習したことを振り返り復習ができるように、また、今何をしているか、これから何をするのがわかるように、毎授業の予定と目標からなる全体のコース内容をスケジュールの形に

して可視化しています。

このマップで、学生たちが自らの位置を的確に把握することで目標までのくらい距離があるのかを自覚することができます。そのため、私は授業内でかなりの時間を使って、前回の授業でカバーした内容について確認し、今達成すべき目標は何か、そして次にする内容について考えます。

Q. 学生の学習意欲を増幅させるためにどのような工夫をされていま

すか？中には必修である言語の授業にはモチベーションを持たない学生もいると思うのですが。

A. 教育の質はもちろん高くあるべきですが、学生のモチベーションも同じように高くあるべきです。ですから、マップを作成して、自分たちが今やっていることはなぜ必要なのかを知ることが大切です。なぜかがわからないと、学生たちはモチベーションを失ってしまいます。そのため、学生には「今英語を勉強しているから将来海外で働け

る」といった曖昧なものではなく「なことが重要です。短期的な目標を設定しクラスマップに自分を配置することが、学生の学習意欲を維持する秘訣です。

Q. もともとのモチベーションは高いけれど、セメスターの中盤になるとモチベーションが下がってきてしまう学生についてはどうですか？

A. そのタイプの学生は無駄なものと有

益なことを見分けるのが得意だと思います。私は時間が無駄になるような課題は出さず、チャレンジングな課題を与えるようにしています。同じことの繰り返しや時間を費やすだけの作業はモチベーションを失う原因となります。それぞれの授業内容を行う価値を学生に示すことが重要です。同時にクラス全員が一緒に行っていることを示すことが重要で、学生からのフィードバックも授業計画を改善する助けになります。

Q. 今年は春セメスターからオンライン開講でしたが、授業内容に変更を加えた点はありますか？そしてオンライン授業と対面授業、どちらがよりいいと思いますか？

A. 個人的に言語クラスの大部分がコミュニケーションを基本として考えています。Zoom は遠くにいる人とのコミュニケーションを可能にする一つの方法ではありますが、特に言語クラスにおいては、教室で直接会って

Week	Monday	Tuesday	Thursday	Friday	
8	11/30 Writing Q2 Timed writing practice / diagnostic Consulting on Q1: grade tracker	12/1 Listening Unlock Unit 5 (Sports) p. 102-105 H/W: Unit 5 vocabulary list	12/3 Writing & Listening Unlock Unit 5 (Sports) p. 106-109 Writing Workshop 6: Reflection H/W: Unlock p. 110-112	12/4 Listening Check H/W and review: p. 110-112 Unlock Unit 5 (Sports) p. 113-115 Progress Test Skills Practice	
9	12/7 Writing & Speaking Writing Workshop 7: Direct Comparisons Unlock Unit 5 (Sports) p. 116-118 Progress Test Skills Practice	12/8 Speaking & Review Unlock Unit 5 (Sports) p. 119-121 Unit 5 Objectives Review p. 123 Pair-Discussion Test practice (Unit 5) H/W: Unit 5 Unlock Online W.B.	12/10 Writing & Listening Writing Workshop 8: Comparing ideas Unlock Unit 6 (Business) p. 124-127 H/W: Unit 6 vocabulary list	12/11 Writing & Listening Writing Workshop 9: Paragraph review Unlock Unit 6 p. 128-131 H/W: Paragraph outlines, Unlock 132-136	12/12 Saturday GOAL lecture (Monday schedule)
10	12/14 Listening Check H/W and review: p. 132-136 Unlock Unit 6 (Business) p. 137-139	12/15 Speaking & Critical Thinking Unlock Unit 6 (Business) p. 140-141 Progress Test Skills Practice Writing: feedback on outlines H/W: Paragraph first draft	12/17 Speaking & Review Unlock Unit 6 (Business) p. 142-143 Progress Test Skills Practice Fair-Discussion Test practice (Unit 6) H/W: Unit 6 Unlock Online W.B.	12/18 Speaking & Review Unit 6 Presentations p. 144 Unit 6 Objectives Review p. 145 Due: Paragraph first submission to Turnitin	

↑サンダース教授とクラスマップ

関わることに取って代わるものではありません。私は、学生たちが授業中입니다。学生の表情を見ることで、私が教えていることを理解できているかわかるからです。しかし Zoom ではすべての学生のビデオがオンになっているわけではないし、またオンになってもカメラの中心に顔が写っていないときがあり、学生の顔や表情を注視するのが困難です。このように、オンラインでは学生から自動的なフィードバックをもらうことが難しく、適切な

コミュニケーションとフィードバックを行うことができる対面授業のほうがよりよいと思っています。しかし、Zoom 授業では新しいテクノロジーのおかげで対面授業ではできなかったようなオンラインゲームなど、Zoom 接続中に簡単にアクセスできるコンテンツも取り入れました。

私の場合オンライン授業と対面授業の大きな違いは、PPT スライドです。対面授業ではだいたい 1、2 ページのアウトラインを示すスライドを使用す

るだけでしたが、Zoom では毎回 PPT スライドが必要で、一部は自分のメモ用として、そして授業で何をするか学生に見せるものです。最も配慮したことは、学生が重要な情報を聞き逃さないようにこの「Zoom セメスター」をゆっくり進めていくことでした。

Q. 授業内容を改善するとき、どのようなステップで改善を行いますか？

A. 私は英語プログラムの責任者の一人

なので、他の教授の意見を聴く機会があり、それが授業で共有する資料の改善に役立っています。教師や学生からのフィードバックは授業内容の改善に向けた一つのステップです。対面授業のときは、「Socrative」というアプリケーションを使って、すべての学生から素早くフィードバックをもらうことができました。

Socrative は、クイズや出席確認、学生のフィードバック回収などの授業内アクティビティに利用できる無料ア

プリケーションです。これを利用すると、学生に授業について感じていることを回答してもらうことが可能になり、授業計画が機能したか、失敗したかを知るのに役立ちます。フィードバックでは学生の授業に対する理解度を確認でき、教員が生徒の意見を見ることができるので、次の授業計画の決定に大いに役立ちます。また、アンケートのコメント欄が有効で、「この部分は難しかったけれど役に立ちました」などのコメントが寄せられることもあ



り、非常に参考になります。

Q. 学生に期待することは何ですか？

A. まず一つ目に学生に求めることはク



↑ 対面授業時のサンダース教授と学生たち

ラスメイトを尊重することです。互いを尊重し合っていれば、ミスすることに対する心配が減り、日本人同士で英語を使うのが不自然でも、気にせず話し始めることができます。また、レベルが高いか低いかに関わらず、生徒たちの最善の努力を見せてほしいです。レベルの高い学生は、積極的な授業への参加やハイレベルな語彙や文法の使用で力を発揮してほしいし、低いレベルの学生にとっては、まずは積極的に話すことや授業に集中することが

非常に大切であり、各学生のベストは個人で異なるものであると認識しています。

もうひとつ学生に期待することは、私やクラスの仲間、または SALC に行くなど、誰かに助けを求めることです。APU では、助けを求めれば英語を練習する機会が簡単に得られるようになっているので、それを十分に活用してほしいです。

Q. APU にいらした最初の年から、

どのような試行錯誤を行ってきたか？
どのような成功と失敗がありましたか？
また当時と今の指導法ではどのくらい変化しましたか？

A. 私が APU に来たのは 2008 年のことです。当初の Semester で言えることは、「度を越えて」学生のことを考えていたということです。60%以上の学生から返事をもらったり、エッセイや課題を完了してもらうためにできることは何でもやりました。しかし生徒にとっては目的地に着くことよりも旅

の途中が重要であるということにすぐに気が付きました。全体像をつかむためには、学生がすべての分野で少しずつ語学力を向上させていくことが重要です。

また、試行錯誤の末に私がもう一つ学んだことは、授業中にゲームをやると生徒たちのカリキュラムに対する敬意が少し薄れる傾向にあるということです。ときに生徒たちはゲームと実際の授業内容のつながりを見失ってしまいます。そのため、ゲームは少

ないほうが効果的なのです。

インタビューの感想

教授にインタビューをしたのは今回が初めてでした。私はサンダース教授の授業に参加したことはないのですが、1 Semester 目に TA として準中級英語クラスに参加し授業を見る機会があり、そのときも同様にアクティブラーニングを取り入れ、非常に良く構成された授業になっていました。サンダース教授のインタビューを終えて、よい学習環境をつくるためには、教授と学生の双方からどれだけ多くの努力が必要となるかがわかりました。例えば、学習アプリケーション「Kahoot」や「Quizlet」は学生たちにとっても人気があったことを覚えています。新しい教材や技術を積極的に採用する教授たちやそれを受け入れる学生たちは、よい学習環境への貢献の一部だと思います。

「Q」とは



APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてください、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。